

令和元年度 第2回 青森市スポーツ推進審議会 会議概要

開催日時 令和2年2月17日（月）18：30～19：30

開催場所 青森市福祉増進センター 3階 中会議室

出席委員 増田 あけみ会長、柿崎 泰明委員、岩崎 一生委員、神 明彦委員、高杉 勝彦委員、高橋 光夫委員、竹内 慎委員、塚田 晴彦委員、中田 吉光委員、長内 良丸委員、久慈 佐知子委員、斎藤 広樹委員
《計12名》

欠席委員 なし

事務局 経済部理事 百田 満、経済部次長 横内 信満、地域スポーツ課長 遠嶋 祥剛、地域スポーツ課オリンピック・パラリンピック推進室長 小山 信哉、地域スポーツ課主幹 淋代 優樹、地域スポーツ課主幹 岩淵 寿哉、浪岡事務所地域づくり振興課主幹 今村 剛志、地域スポーツ課主査 葛西 光明、地域スポーツ課主査 榊 征也、地域スポーツ課主査 滝浪 千絵、地域スポーツ課主査 中川 広樹、浪岡事務所地域づくり振興課主事 高坂 泰行
《計10名》

会議次第

- 1 開会
- 2 審議
(案件) スポーツ団体に対する補助金について
 - ・一般財団法人青森市スポーツ協会
 - ・青森市スポーツ少年団
- 3 報告
(案件) 令和2年度当初予算(案) 主なスポーツ振興事業について
- 4 閉会

審議（案件）スポーツ団体に対する補助金について

事務局から、資料1のとおり、スポーツ団体に対する補助金について説明があった。

意見、質疑応答

○委員

青函対抗総合体育大会開催・選手派遣事業について、国体を見据えて、小・中学生の派遣に関する検討状況を教えてほしい。

○事務局

後日、詳細について委員へご報告する。

○委員

スポーツ少年団について、4つの補助内容が記載されているが、これ以外の競技に対するスポーツ少年団の補助はどのように考えているのか。

○事務局

団体に対する補助ではなく、大会の開催経費に対する補助となっており、記載のとおり、県レベルの大会などを補助することとなっている。

○委員

スポーツ少年団と学校スポーツ、特に中体連との関係はどのようになっているのか。

○事務局

学校単位で部活動として行われているものと違い、周辺地域をスキームとしたものと理解している。

報告（案件）令和2年度当初予算（案）主なスポーツ振興事業について

事務局から、資料2のとおり、令和2年度当初予算（案）主なスポーツ振興事業について説明があった。

意見、質疑応答

○委員

1ページ目の観光コンテンツ造成事業におけるサイクルツーリズムについて、自転車を貸し出すレンタルサイクルのような取組を考えているのか。

○事務局

今年度中にコースを設定することを目標として検討を進めており、コース設定後は資料に記載のとおり、ペダルレストの設置など、受け入れ環境の整備を進めていく。

現在、8市町村連携で取り組んでいる中、自転車のレンタルに関する内容は議論されていない。今後、順次、取組を進めながらどのような環境整備が必要となるか、8つの市町村と連携して検討していくこととなる。

○委員

3ページ目に記載のある青森市アリーナプロジェクト推進事業の中で、来年度に事業者の募集・決定とあるが、建物の規模について教えてほしい。

○事務局

アリーナプロジェクトを進めるに当たって、有識者会議を開催しており、その会議の中で一昨年に中間取りまとめを行った。その中では、現在の市民体育館と比較し約2倍までではないが、概ねその程度の規模として整理している。また、サブアリーナや多目的ルーム、キッズルームなど、規模を含めて事業者から提案いただくこととなっている。

○委員

1ページ目の観光コンテンツ造成事業について、手で漕ぐハンドサイクルを活用できるよう、トイレなども含めた環境整備を他の市町村と調整しながら進めてほしい。

3ページ目の第80回国民スポーツ大会開催準備事務について、準備委員会の設立に当たっては、国民スポーツ大会の約3週間後に開催される全国障がい者スポーツ大会も踏まえ進めてほしい。

○事務局

ハンドサイクルについて、8市町村で検討を進めていく中で、是非ご紹介させていただきたい。

国民スポーツ大会や障がい者スポーツ大会については、来年度において、国民スポーツ大会の開催準備委員会の設立を進めることとなるが、今後、県から具体的な内容が示され次第、市でも準備を進めていく。

○委員

3ページ目の青森市アリーナプロジェクト推進事業について、完成予定はいつか。

観客席数のほか、施設の規模はマエダアリーナをイメージすればよいか。

○事務局

アリーナプロジェクトの完成予定時期については、2025 年の国民スポーツ大会の前年度に開催されるリハーサル大会を目途として、2024 年度を考えている。

観客席については、中間取りまとめにおいて B リーグと V リーグにも対応できるよう、可動式座席も含め、3,500 席として整理している。このほか、コンサートホールとして利用する場合、5 千人程度収容できる規模として考えている。

マエダアリーナは、7 千から 8 千人程度の規模であるため、マエダアリーナより少し小さな規模となる。

○委員

2 ページ目のあおり桜マラソン開催事業について、開催日が 4 月 19 日となっており、大詰めに入ってきているが、現時点での参加者数やボランティアの人数はどのような状況か。

また、このフルマラソンは、公益財団法人日本陸上競技連盟の公認を取ることでよいか。

○事務局

参加者の申込状況については、フルマラソンでは定員が 2,200 名の予定であり、現在、約 1,400 名強、7 割弱の参加状況となっている。

続いて、ボランティアの状況については、約 1,200 名のボランティアが必要と見込んでおり、スポーツコミッションの構成団体である各団体、やスポーツ団体、学校、金融機関など、皆様にご協力いただくとともに各町会や、コース沿線の中学校、高等学校、市内の各大学の皆様にもお願いをしているほか、一般申込もいただいております、現在、数字の積み上げをしている状況である。

なお、当該マラソンは公益財団法人日本陸上競技連盟の公認をいただくこととしている。

○委員

あおり桜マラソンの開催に当たって、新型コロナウイルスも発生しているが、対応は検討しているのか。

○事務局

状況を注視して検討していく。

○委員

このほか、事務局から連絡事項などはあるか。

○事務局

前回の第1回審議会において、委員から2点のご質問があった件についてご報告したい。

ご質問については、競輪場の競輪宿舎を使用していない時期にスポーツ合宿施設として活用したらどうかというご意見と地域のプロスポーツクラブ等の交流事業の一環として日本競輪選手会青森支部所属の選手への支援に係る検討の2点である。

まず、一点目について、宿舎を所管する競輪事業所に確認したところ、他競技への貸し出しについては、現在想定していないものの、使用状況によっては活用を検討できるということであった。その一方で、市内においては、主にスポーツ合宿で団体が使用しているマエダアリーナの合宿所があるが稼働率が約20%という状況であること、市街地に民間の宿泊施設も数多くあるということから、現時点では宿泊施設が充実している状況にある。

このような状況を踏まえ、合宿誘致を進める中で、合宿する際の宿泊観光や練習場所など、合宿希望があった団体の相談内容に応じて、競輪事業所も含め、スポーツや観光などの各種団体と連携して情報提供などを行っていくことを考えている。

次に、2点目について、現在、地域スポーツ課では、地域のプロスポーツクラブとして民間主体で活動している青森ワッツ、ラインメール青森FCへの協力や支援を行っている。一方、競輪競技においては、市が競輪事業者として選手の訓練や育成等のため、日本競輪選手会青森支部に対する支援を行うとともに当会とも協力し、子どもを対象とした自転車イベントなどの各種事業に主体的に取り組んでいるところである。

このことから、当課は民間が主体的に実施する活動をサポートする一方で、競輪事業については、市が競輪事業者の主体として取り組んでいる状況であり、それぞれで取組を進めている。このほか、当課の取組については、競輪事業所に必要に応じて情報提供するなど、連携して取り組んでいく。

閉 会